

句集

潮路

しほぢ

塩川雄三

朝日新聞社

寒灯を暗く点して商へり

八代

翅に貌埋め凍鶴みじろがず

凍鶴を見てゐる吾も凍ててをり

余呉湖

雪の宿木の階段に木の手摺

除雪せし湖畔の道を一周す

雪を掻く巫女にスコップ重すぎる

雪礫幾つも城の濠に投ぐ

梅見茶屋声高に人通り過ぐ

安藤東平追悼

ぼつかりと開きたる穴や春寒し

白毫寺

五色椿満開色の定まらず

鶴殿蘆焼 六句

枯蘆原人容れてより鎮まれる

蘆焼く火蘆一本も残さずに

たちまちに黒焦げとなる焼蘆原

枯蘆の逃ぐる術なく焼けゆけり

枯蘆を焼く火滅びの音をたて

蘆焼かれ大鉄塔の逃げだせず

折つて来し梅の一枝もてあます

柁挿す鬼の立ち入る隙もなし

大いなる柵を抱へて豆を撒く

沖に沖あつて霞める船が航く

燃えしぶる左義長の火を叱陀して

二見浦

寒巖の夫婦と言へど相寄らず

降らすだけ降らし雪雲解散す

矢狭間の三角四角雪降れる

生駒山上 三句

スケートの薄刃に重き身を託し

スケートの転倒の子の照れ笑ひ

氷上の混みゐて人とぶつからず

杣始一打に山の応へをり

兵庫県・綾部山 二句

熱き茶が欲し梅林に長居して

観梅にバスも通はぬ峡に来て

その人とすぐわかる文字年賀状

初 篝 美 し き 闇 動 き を り

寒 牡 丹 開 く 気 力 を じ つ と 見 る

日 本 海 ま だ の 断 崖 水 仙 郷

追 儼 会 の 鬼 に 会 釈 を さ れ ゐ た り

追儺会の鬼逃げ闇の残りたり

厄塚に吾が厄投じ届かざる

厄塚に点火すぐには火にならず

鵜殿蘆焼 二句

高槻市消防本部蘆を焼く

蘆焼の火よりも赤きシャツを着て

生駒嶺は常変はらず年新た

初刷りに目をくつつけて読んでをり

つくづくくと素顔を見入る初鏡

よきことは声出して読む初神籤

初笑屈託もなく生きてゐし

人の来て人の去りゆく初戎
福笹が通ればそこが福の道

気に食はぬことあり強く寒柝打つ

伏見・石動寺

石仏は石の塊り凍て極む

降る雪の再び天に戻れざる

2002年9月10日 第一刷発行

句集 潮しほ路ぢ

著者 塩川雄三

発行者 越村隆二

発行所 朝日新聞社

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

電話 03 (3545) 0131 (代表)

編集 ウエップ編集室

俳句朝日編集部

販売 出版販売部

振替 00190・0155414

印刷 株式会社東京印書館

※定価はケースに表示してあります

ISBN4-02-330712-2 C0092